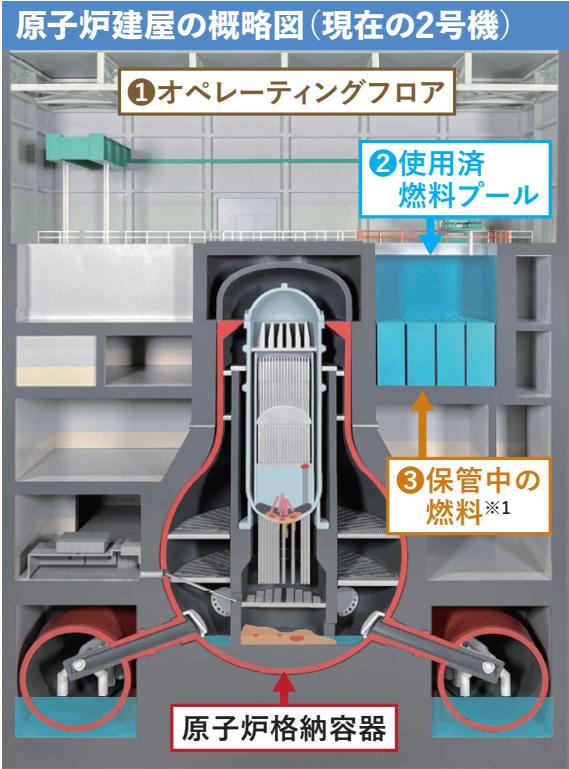


福島第一原子力発電所の廃止措置等の進捗状況

(2026年8月10日時点)

発電所のリスク低減にむけて、原子炉建屋の使用済燃料プールで保管している燃料をより安定した保管が可能な設備へ移送するための作業を着実にすすめています。



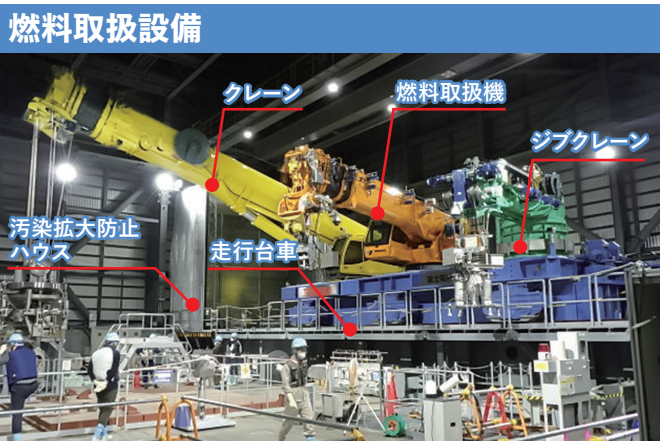
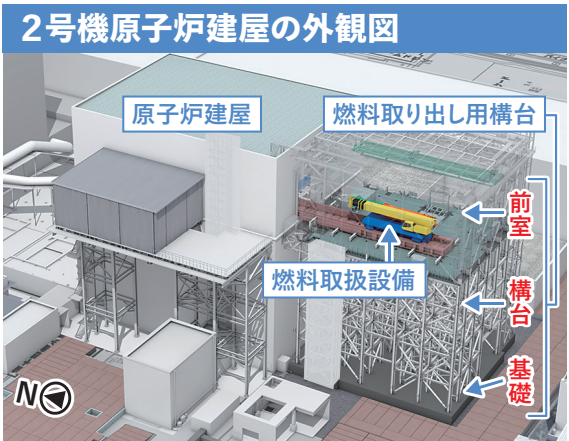
- ① 事故以前は、原子炉建屋のオペレーティングフロアで、使用済の燃料と新品の燃料の交換作業を行っていました。
- ② 原子炉建屋内で交換を行うため、使用済燃料プールと呼ばれる水槽にそれらの燃料を保管していました。
- ③ 現在も使用済燃料プールにおいて、事故時に保管していた燃料を、継続的に冷却しながら保管・管理しています。
- ④ 福島第一原子力発電所では、より安定した保管が可能な共用プールへ移送するための作業をすすめています。

※1 1～4号機建屋の使用済燃料プール内の燃料数(2026年7月末時点)

|      | 1号機  | 2号機  | 3号機  | 4号機  |
|------|------|------|------|------|
| 燃料の数 | 392体 | 587体 | 移送完了 | 移送完了 |



2号機原子炉建屋では、使用済燃料プールからの燃料取り出し作業を6月から開始しています。



燃料取り出し作業の様子を動画でご覧いただけます。

原子炉建屋内オペレーティングフロアの放射線量が高いため、建屋の南側に設置した構台から燃料取扱設備を進入させ、遠隔操作で燃料を取り出しています。7月末時点で615体中28体の取り出しが完了しています。

# 1号機では、オペレーティングフロアの ガレキ撤去作業を6月から開始しています。

## オペレーティングフロアのガレキ



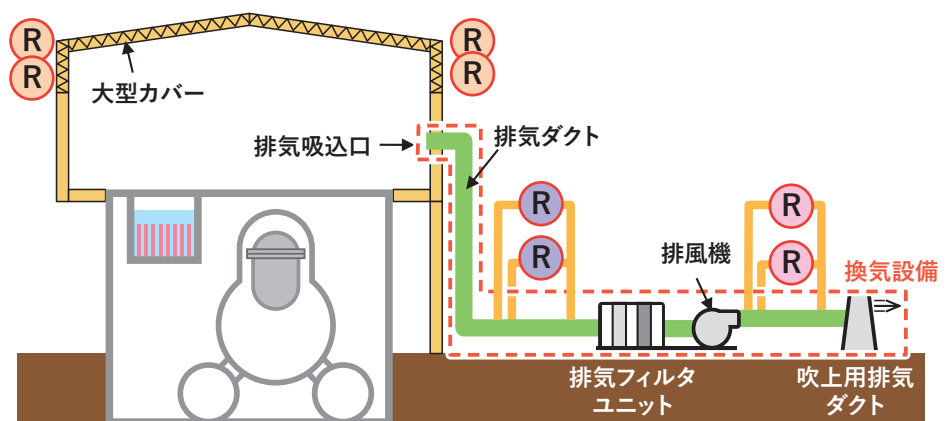
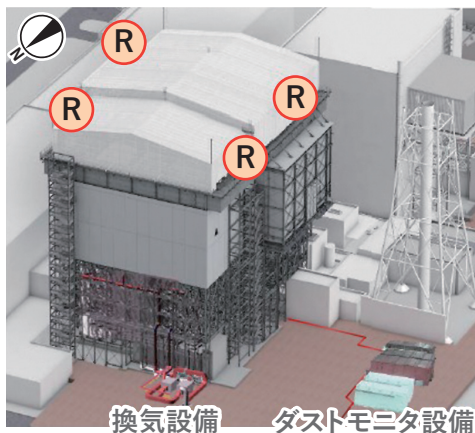
## ガレキ撤去の様子



- オペレーティングフロアのガレキは、プールの上にも積み重なっており、プールの中の燃料を取り出す前にまずガレキを撤去する必要があります。
- 1号機からの燃料取り出しは、2027～2028年度に開始予定としており、現在は、遠隔でクレーンを操作しガレキを運搬容器で搬出する作業を継続しています。

撤去にあたり、周辺に放射性物質を含むチリやホコリを放出させないように  
安全に作業をすすめます。

## 1号機の大型カバーと放射線モニタの設置箇所



- ガレキには放射性物質のチリやホコリなどが付着しています。ガレキ撤去にあたり、大型カバーを設置し、その中で作業をおこなっています。
- ガレキ撤去にあたっては、上図の (R) の箇所に放射線モニタを設置し、放射性濃度を監視しています。
- 警報が発報した場合は、すぐに作業を中断し、断続的に散水するなど、安全を最優先に撤去をすすめています。

編集発行  
責任者

## 東京電力ホールディングス株式会社

福島第一廃炉推進カンパニー  
廃炉コミュニケーションセンター  
コミュニケーション企画グループマネージャー  
〒979-1301 福島県双葉郡大熊町大字夫沢字北原22

こちらでもご覧いただけます。  
【1ForAllJapan】<https://1f-all.jp/>  
目次より「いちえふのいま」を選択

